

4) Franchet が *Cerastium pumilum* Curt. と同定した Delavay 採集の標本は世界広布の雑草 *C. glomeratum* Thuill. オランダミミナグサである。

5) *Cerastium vulgatum* varr. *angustifolium*, *brevifolium*, *acutifolium* Franch. と云うものは 2 種の混合物であった。即ち var. *angustifolium* は *C. holosteoides* var. *hallaisanense* Mizush. ミミナグサであるが、残る二者は *C. rubescens* Mattf. 即ちタカネミミナグサの母種に当るものであることが分った。

6) Franchet は Delavay no. 1900 標本を新熱帯原産の *Drymaria cordata* Willd. であるとしたが、やはり東南アジア原産の *D. diandra* Bl. ヤンバルハコベであった。Duke (1961) は中間形が存在するからとの理由で、*D. cordata* ssp. *diandra* (Bl.) Duke としたが、筆者が彼の説を採らない訳をも述べた。

□ Bold, H. C.: **Morphology of plants** ed. 2 pp. 541 (Harper International edition, ¥2, 160 (1967) 1957 に出た版にかなり手を加えた新版。版を大きくして二段組みとし、挿画の大部分を適切なサイズに改め、写真を多くとりかえたのでずいぶんスマートになった。電子顕微鏡の写真もふえた。従来の顕微鏡写真のやばったさが大分とれたのは写真の上達とトリミングの適切さで、今までのをつかったのもしばしば裏返して使って効果をあげている。頁数は減った。全体を分類の門を単位にしてその中で代表的の種類について生活史をたて糸にして形態を記述する方針は同じ。25の門に分かつのはシダと裸子植物段階の細分化がきいているため、材料も新しいものを加え、たとえば *Takakiales* なども載っている。藻類、菌類、管束隠花植物、裸子植物の各段階毎に総論的論議をなし後者でテロム説を特に強調している。写真は見ていても楽しいし、何にも増して日本で印刷、販売する関係で印刷の鮮明と廉価とが本を備え易くしている。(前川 文夫)

□ 李昌福 (Lee Tchang Bok): **韓国樹木図鑑** i—vi+pp. 1—348+index 42 pp. 729 figs. (Oct. 1966), 林業試験場 (非売品)。ソウル大学農科大学の李教授が、林業試験場の委嘱によって著作された。729 種類 (変種の図も時折入っている) の竹笹を含めた木本植物の図があり、部分図が沢山あるので同定の助けになること大である。図は中井先生の著作からの転写、ソウル大学標本館の標本から、また新たに資料を採集描画したものも多い。時折原図の線が生かされていないものがあるのは惜しい。学名は中井先生のものが主体であるが、所々に新研究の成果も入っている。シナサワグルミの学名が *Platy-carya stenoptera* とあるのは *Pterocarya* を思い違ったものか。本文後半は科から変種までの検索表と、文献集を兼ねた樹木目録であり、学名への新知見も散見する。栽植品も図があるので、韓国自生樹木と共に比較検討に便であらう。非売品ではあるが、邦書との交換によってなら入手出来る (水原市、ソウル大学農科大学李昌福博士)。

(水島 正美)